

▼編集後記

『ゲシヒテ』創刊号をお届けいたします。

すでに四〇年近く「家内工業的に」研究会を営んできたドイツ現代史研究会が、ついに機関誌を発行することになりました。その事情については、『ニュースレター』第八号の「ご挨拶とお願い」をご覧下さい。機関誌を発行することは、研究会が「いい加減」ではすまなくなるといふことなのですが、『ニュースレター』第三号の井上茂子氏による興味深いエッセーを参照)、ここは、研究者に「業績」なるものをどんどん求める現在の風潮を嘆くよりも、研究会の新たな第一歩として前向きにとらえて喜びたいと思います。

さて、本号では、ヴェテラン・中堅・若手とそれぞれの世代の論考を掲載することができました。この第一歩が今後の長い歴史に向けた一歩となることができるかどうかは、ひとえに会員の皆様方のご協力にかかっています。今後ともどうかご協力をよろしくお願いいたします。(KH)

本誌の創刊準備・編集実務を担当しました。創刊が決まってから、準備委員会の立ち上げ、規約の改正、編集委員の選出、投稿の募集、論文の査読、体裁の決定、原稿の校正など、一連の作業を進めてまいりましたが、準備委員会・編集委員会の皆様のご協力により、ここまで非常にスムーズにことが運びました。この場を借りてお礼申し上げます。

ドイツ史研究者を取り巻く状況は、きわめて厳しいものがありますが、本誌創刊にかかわった若い方たちには、そうした状況をうち破るエネルギーが満ちあふれていることを、今回あらためて実感しました。しかもドイツ現代史研究会には、第一線の研究者が若手の成長を温かく見守るという、古き良き寺子屋的な伝統が息づいています。本誌の創刊が、この伝統の継承と発展に少しでも寄与できれば、それにまさる喜びはありません。

第二号の投稿受付は二〇〇八年九月末日の締切です。どうぞよろしく願います。(DT)

▼編集委員

原田一美 (大阪産業大学)

川越 修 (同志社大学)

高橋秀寿 (立命館大学)

▼編集実務

田野大輔 (大阪経済大学)

ゲシヒテ

第1号

2008年3月31日発行

▼編集発行

ドイツ現代史研究会 (代表・原田一美)

〒574-8530

大阪府大東市中垣内三―一―一

大阪産業大学 原田一美研究室内

▼印刷

株式会社オーエム